

第12回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）



守り育てる会 山城会長

平成 25 年 5 月 11 日に第 12 回南砺の地域医療を守り育てる会が開催されました。今回は、一橋大学大学院社会学研究科教授の猪飼周平先生に、地域包括ケアについてご講演していただきました。猪飼先生は『病院の世紀の理論』という本の出版をきっかけに医療界で注目を集めている社会学者です。地域包括ケアシステムの構築が急がれていますが、その原理原則を正しく理解するためにお呼びいたしました。まずは、講演内容を下記のように箇条書きでまとめてみました。

第 1 部

一橋大学大学院社会学研究科教授 猪飼周平先生

テーマ：地域包括ケアへ向かう歴史的潮流とは何か

- ・なぜ地域ケアを守り育てなくてはならないのだろうか
医師の考え：生活習慣病→生活支援→在宅・地域への流れ
厚労省の考え：高齢社会→財政問題→地域包括ケアへの流れ
しかし、原則が説明できていない。つまり、どうしたらいいのか分からないので、事例を持って説明している。
- ・治療医学が及ばない→QOL
- ・高齢化を乗り越える方法→安上りの方法
- ・治療医学敗北説の論理
- ・医療費抑制説の問題
病院医療費を節約する方法であるが、しかし、移動のコストや機会費用で別のコストがかかる。
- ・なぜ、地域ケアを守り育てなくてはならないのか
原則 1：目的は人びとが健やかに暮らし続けることができるようにするため
原則 2：手段として、持続可能な方法が必要。
- ・地域包括ケア
地域ケアと包括ケアを分けて考える。
地域ケアはコストをあげ、包括ケアはコストを下げる。
- ・病院の世紀の理論の構造
- ・生活モデル
エコシステム、生態系システム
因果関係を求めると、原因を無数に探し、対応することになる。
- ・大きな社会変動の一部としてのヘルスケアの生活モデル化
ヘルスケアの福祉化、高齢者ケアは変化の一部にすぎない
- ・生活モデル化への対応としての地域包括ケア化
包括化（医療、保健、福祉の統合）
地域化（生活ニーズの多様性への対応、生活ニーズの情報の取得、生活の継続性）
- ・住民自治の重要性
地域包括ケアの可能性の中から 1 つ選ぶこと。一体誰がどうやって選ぶのか。
住民自治ができる社会が理想。住民自治の成功例（岩手県一関市藤沢病院）、失敗例（夕張）。



一橋大学大学院 猪飼教授

・ソーシャルワークの重要性

不定型なニーズ、職務評価が難しい

要するに行政が従来最も苦手とするタイプのサービスが主力となるということ
試金石としての保健師の処遇が重要となる。

・自己決定への過度の依存の危険性

QOL というよくわからない目標に向かう。

自己決定というが、高齢者や障害者での自己決定が難しい
それでは、どうすればいいのか。寄り添うことが重要である。一緒に決めることが重要
“寄り添うケア”

・追加のコメント

高齢者問題は 10 年後の問題である。

しかし、今の 20 代など若い世代には 50 年後の地域が重要である。

そのためにはどのようなケア文化を残すかが重要である。



地域包括ケアについて学ぶ参加者

まとめ：

地域包括ケアシステムを歴史認識の上に立って考えると、

1. 住民自治の重要性
2. 事例検討では、医療者のみならず、住民が参加する仕組みが重要
3. 予防が重要で、保健師の仕事や処遇を考え直す。国からの仕事に振り回されないようにコントロールし、不定型のケアで活躍してもらい、評価法も変える。
4. 10 年後の高齢者問題は一部であり、50 年後のことを考えると“ケアの文化”を構築することが重要。高齢者の対応ではなく、子供や地域住民のケアに対応する文化が重要となる。

猪飼先生の講演を拝聴して、地域包括ケアシステムの構築のためには、その原理原則を正しく理解し、高齢者のみならず子供や障害者も含めたケア文化をつくり上げる事が重要であることが分かりました。今後の取り組みの方向性が明確になり、大変勇気付けられました。

第 2 部

活動グループによる取り組みと今後の計画について

1. NANTO 家庭医養成プログラム（医師グループ）
2. ナースプラクティショナー的ナース養成講座の報告（看護師・理学療法士グループ）
3. なんと住民マイスターの会の取り組み（住民グループ）
4. 五箇山グループの取り組み（住民グループ）
5. 認知症ケアの取り組み（地域包括支援センター）
6. 包括医療・ケア WG の取り組み（行政）

グループ活動の中で、五箇山グループの枳餅作りの取り組みは、地元のお年寄りが大勢参加して、昔ながらの枳餅作りでイキイキとし、また企画した婦人会グループも楽しそうでした。この取り組みは更に広がりそうな予感がしました。それはなぜか。聴衆の皆さんが、自分も参加してみたいなあという顔になっていたからです。

さて、今回で地域医療再生の取り組みも第 4 期が終了し、6 月からは第 5 期のマイスター養成講座が始まります。5 年間でマイスターを 200 名以上養成するという当初の目標が達成できそうです。地道な活動を継続していくことの重要性を実感し、今後も皆さんと一っしょに理想の地域包括ケアシステム作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



活動グループによる発表